

第3号

# 町自連だより

発行／八王子市町会自治会連合会 発行責任者 田中 好雄

〒192-0063 八王子市元横山町1-29-3 ☎ 648-6110

## 定期総会報告!

平成十八年度定期総会は、去る五月二十七日(土)に八王子エルシイに於いて、百二十名の町会自治会長が出席して開催された。

席上田中会長は、防犯・交通・防火防災等に地域の中軸を担って活動している町会自治会長のご苦勞に対し謝意を述べた。

また、今年は市と協働で町会自治会の実態調査を行った。現在その内容を精査中であるが、町会自治会管理組合が抱える問題を明らかにし、その問題点を町自連と行政とが協働して分析し、より良い方向に持っていくべきであると述べた。

議案については、すべて原案通り承認された。

主な質疑応答は次の通り。

Q1 決算報告の支出項目3の活動費の決算額がゼロになつており、摘要欄には広報部等の活動費となつている。支出項目4にも広報費があり、その関係は如何?  
A1 支出項目3活動費ゼロ

Q2 事業計画6項で、町会自治会等の「等」は何をさしているのか。  
A2 マンション等の管理組合をさしている。  
Q3 三役等の活動で、他団体等に呼ばれたとき「祝い金」等が必要と思うが、どうなっているか。  
A3 支出項目11渉外費で計上している。



については、自販機利用で飲物を買つたため、領収証がないことから結果としてゼロとなつたもの。  
次に、支出項目4広報費については、「町自連だより」発行費用の直接費用を計上しているもので、従つて活動費とは異なるもの。

議事終了後、退任した二十七名の町会自治会長に感謝状が贈られた。  
また、総会終了後、引き続き開かれた懇親会には、田中副市長はじめ多くの来賓を交えて懇親を深めた。

## 〈役員名簿〉

- 会長 田中 好雄(川口)
- 副会長 高橋 堅二(中央)
- 会 計 細井 衛(加住)
- 監 事 伊藤 義正(横山)
- 伊藤 利久(元横)
- 林 泰男(由木)
- 安藤 次夫(浅川)
- 山本徳太郎(北野)
- 小俣 武二(元八)
- 事務局長 前野 修

## 〈地区連合会長名簿〉

- 中部 地区 平塚 美臣
- 東部 地区 森 泰男
- 元横 地区 秋間 利久
- 東南部 地区 栗原 博
- 中央部 地区代 井上 博正
- 南部 地区 辻野 領一
- 千人町 地区 川端 忠雄
- 西部第一地区 馬場 聰和
- 西部第二地区 栗林 栄子

- 西部第三地区 宮崎 浩平
- 西部第四地区 串田 明
- 本町 地区 塩野 良光
- 中央 地区 高橋 堅二
- 東北部 地区 坂本 保雄
- 浅川 地区 安藤 次夫
- 由木 地区 林 泰男
- 横山 地区 伊藤 義正
- 元八 地区 小俣 武二
- 恩方 地区 今泉 満政
- 川口 地区 田中 好雄
- 加住 地区 細井 衛
- 由井 地区 茂木 次雄
- 北野 地区 山本徳太郎

## 町自連ホームページ 今秋にも立上げ!

私たち町自連は、平成十八年度の事業計画の一環として町会自治会等のIT化を推進することを決定した。

総会終了後、行政と協働して取組むこととなり、検討委員会を発足して進めてきたが、準備の進行に合わせて「ホームページ委員会」を正式に発足して、具体的に取組むこととなった。

地区連合会間及び町会自治会間として行政との情報交換が容易に行えること、スピ

ーデイに処理ができること。インターネットの一般的な利用率を見ると、四十代で約九十%、五十代で七五%、六十代で約四八%、七十代では十九%となっている。



町会自治会の実態を考慮すると、高齢者を含めて誰でも利用できること、継続していただける体制作りと、支援体制の確立を前提に進めることが重要で、その導入に特別な配慮が必要である。従って、無用の長物とならないよう慎重に進めている。  
内容の概要については、町自連及び地区連合会の紹介、運営内容・イベント情報・町自連のお知らせ・町自連だより・行政関係機関のお知らせ。

トピックス・町自連への加入の呼びかけ等を主体に準備を進めている。

出来れば九月中旬にテスト開始、十月に運用開始を目指している。いずれにせよ町自連傘下の町会自治会の皆さんに喜ばれると同時に、町自連に参加していない町会自治会の皆さんにも活用して頂けるホームページを目指して製作中。

### 「簡易保険団体」

#### 確認作業の課題とは？

#### 簡易保険の地域団体とは

郵便局で扱っている「簡易保険」の「保険料払込団体制度」を利用する地域団体の事。この地域団体は「町会・自治会」も「保険料払込団体」をつくる事が出来るが、郵政公社の「承認」が必要。

#### 承認の要件は？

1、町会自治会の会員(同居家族含む)に限られる。

2、会員の中に十五件以上の被保険者がいる事。

3、保険料を決められた期限内に集金し、一括して郵便局にその月内に支払う事。尚、集金業務を「簡易保険加入者協会」に委託する事は出来る。

4、保険契約者が、会員である事の証明書類を郵便局に提出できる事。家族を含めた会員名簿を提出する事。

5、集金した現金が盗難紛失等により欠損金が生じた場合、及び未収金が出た場合の欠損金対策が具体的に決められている事。

6、提出書類の整備等承認基準を満たしている事。

#### 団体の特典は？

1、該当保険料払込団体には六%（一部七%）の保険料が割引も適用される。  
2、前項1の割引額は、町会自治会の活動費用として活用できる。

#### 民営化後は？

1、平成十九年九月末日まで

に契約された保険は、民営化後も「政府」の支払保証が継続される。

2、町会自治会が関わる「地域団体」の保険料払込団体制度の継続については、未定である

民営化後については、民間の生命保険会社等との関係もあり、不透明な部分が多いことは事実である。

3、集金等の委託先である「簡易保険加入者協会」も今後の動向が不透明なので、整理統合は充分に考えられる。

#### 課題に対する町自連の見解

1、保険契約者の利益を守る立場に立つて考える。

2、当初、郵便局が勝手に団体を作り運営してきたが、平成八年になって各町会自治会に「保険料払込団体」を組成するよう協力を求めたので具体的に「団体組成」の取組みを始めた。

3、平成十五年に郵政省から日本郵政公社になったところで、「保険料払込団体」に対する取扱いも法令の遵

守を求められるようになり、「構成員確認用書類」提出の遵守を求めてきたが、団体に対する説明が不十分であり、今回初めて知らされたとの情報が多数寄せられている。

4、従来「郵便局」と「加入者協会」は同一視されていたが、「郵便局」と「保険料払込団体」が協議の対象であり、「保険料払込団体」が集金業務の委託先として「簡易保険加入者協会」を選ぶか自前で集金業務を行うかを決定する。

5、「保険料払込団体」に違法行為・欠損金発生時の弁償義務が発生する。

6、「保険契約者の全員の会員確認」作業が加わった事も混乱の要因である。

7、「日本郵政公社」になった時から、「団体の見直し」及び「保険契約者全員の会員確認」を徹底して進めていけば今回のような混乱は起きなかつたと思われる。時間をかけた説明と時間をかけた作業が不足していた事に尽きる。

# 市制九十周年 八王子まつりに 五十五万人の人出!



た事を、厚く御礼もうしあげると同時に感謝申し上げます。

## 町自連事務所 業務開始!

毎週火・木の二日間  
九時～十二時迄  
TEL 六四八―六一一〇

町自連設立以来、事務局はあれども事務員がいなくて皆さんに迷惑をかけてきた。

恒例の「八王子まつり」が「市政九十周年記念」を銘打って八月四日～六日の三日間、甲州街道を中心に開催された。私たち町自連も「協賛団体」として積極的に参画し祭りを盛り上げてきた。

三日間とも晴天に恵まれて賑わいを見せ、人も警察発表では三日間で五十五万人を数えて近年では最高の人出となった。

各町会自治会の皆さんのご協力のお陰で成功裡に終わ

## 地域のあれこれ

### 八王子浅川子ども 水辺協議会発足!

会長 高橋 堅二

市内の中心を流れる浅川を活かして、子どもたちが自然とふれあうことによって、自然や環境を大切にすることを行動力を育成する。

このような活動で、河川を大切にしようという意識の高揚が図ればとの願いから、去る六月二十九日に設立総会を開催して発足した。メンバーは、鶴巻橋から大和田橋間の町会自治会を中心に行政や漁協・市民団体も加わっている。

設立記念行事として、俳優の中本賢さんを講師に招き七月十三日に十小で特別授業を実施した。

八月十三日には中本賢さんを隊長に、市役所北側の河川を利用して「ガサガサ探検」を開催し親子連れ約百名が、

川の生き物調査、安全な川遊びについて学んだ。大人たちも魚の種類や生き物の多さに驚き、浅川の大切さを再認識していた。参加した親子連れは、浅川の大切さ、自然の素晴らしさを理解したであろう。

### 手造りのミニ美術館

由井地区連合会  
会長 茂木 次雄

私は、小比企団地の自治会員として、四十年近く住んでいる。当自治会は、京王片倉駅と山田駅のほぼ中間に位置し、南側は京王高尾線が走り、東西は緑町に囲まれた閑静な住宅地で、百五十世帯余りの人たちが住む交通便利な潤いのある街である。

今から二十数年前、地域活動の拠点となる「自治会館」を持つということで、会員の総意により「会館」を建てることとなった。

資金は各世帯の拠出金(コミュニティポンド)を充て、敷地は市から借用して建物は

古材を再利用し、町内の大工さんの指導の下に毎週土・日曜日に数名の会員が、「ノミ」や「金槌」を手にして約八ヶ月がかりで完成した。



現在、自治会館は地域の交流の場として愛され、自治会行事の「親子七夕祭り」「餅つき大会」「防災訓練」「新年会」その他各種会議等に利用されるところに、高齢者の生涯学習の施設として、カラオケ、民謡、舞踊、書道、写仏、手芸等各種クラブ活動に有効に活用され、館内には書道、写仏、手芸等会員の作品が、年間を通して展示され、「ミニ美術館」として、会員の皆さんの目を楽しませていると同時に、心に安らぎを与えている。



当方にお出かけの節は、自知会館にお立ち寄り頂ければとご案内まで。

### 元八地区の活動報告

元八地区連合会  
会長 小俣 武二



元八王子地区は、市の中心部より、西へ水無瀬橋を渡れば元八王子地区、南は長房、西は城山、北は浅川、また、切通しを境に恩方と区分され、交通は四谷を中心に高尾街道と陣馬街道が交差する。

面積は一万二千七百八十一平方キロメートル、二万世帯、三十四町会自治会で人口五万四千人という大きな地区である。

陣馬街道と高尾街道の朝夕のラッシュ時の交通渋滞は大変なもので、バスで通勤・通学する人たちは、「四谷」で一旦下車し、「三村橋」で五

六台前のバスに再乗車するという珍現象が数年前から現在も続いている。

八王子市に合併した昭和三十年には七千五百人だった人口が、七・二倍にも増加したための「交通渋滞」解消は地元住民の悲願である。

毎年十月の第三日曜日には「市民大運動会」を盛大に開催し、「自然と歴史のふれあうまち元八王子」を合言葉に、新旧住民のコミュニケーション活動と中央道「元八インターチェンジ」の開設、先進都市調査研究の視察、町会自治会長の歓迎宴会、新年会等を恒常的に実施している。

### 北野地区の変遷！

北野地区連合会  
会長 山本徳太郎

北野地区は、北野・打越・長沼の三地域より形成され地区の中心は、京王線北野駅周辺で駅前には商店街となつて、商業経済文化の重要な拠点として発展してきた。

駅前周辺には、北野市民セ

ンター・市役所北野事務所・由井第一小学校・打越中学校等の施設が集まっている。

この地域の地勢は、南浅川を水源とする湯殿川が西から東に流れ長沼町で浅川と合流している。湯殿川の両岸は、土地区画整理事業によって整備され魚類や野鳥類が多数生息している。また、川の堤防は遊歩道として多くの市民に利用されている。

昭和三十年頃までは地区の北半分は田園地帯であつた。その名残として駅前のモニュメント「田植えのブロンズ像」が建っていて昔が偲ばれる。南半分の地帯は、多摩丘陵の一部で宅地開発が行われる前は、御殿峠より高幡不動

までのハイキングコースがあり、年間を通して多くの人々に親しまれた。現在その一部が長沼町にその面影を残して、雑木林の中に野鳥焼きの店が現在でも営業しており懐かしさを感じる。

交通機関としては、京王線が東西に通じ北野駅で京王八王子線と高尾線の分岐点となつている。JR中央線が地区の北側を、横浜線が西側を

走っている。バス路線は北野駅の北口から由木・南大沢方面と網ヶ丘・北野台方面に、また、北野台を経由してみなみ野方面に運行している。

幹線道路は、由木地区に通ずる野猿街道、東西に通じる北野街道、長沼町からみなみ野方面に通ずる新道、南北に通ずる国道十六号バイパス等が主要な道路である。現在北野街道のJR横浜線打越踏切の立体交差化工事が平成二十年の完成予定で進行中である。

昭和三十年に八王子市に合併した頃は、約八百戸で約三千人の人口と聞いていたが、現在は、一万六千戸で五万四千人の人口を数える地域に発展してきた。町会自治会の数も三十二を数え当連合会に加盟する町会自治会は二十二町会自治会となり、未加入の町会自治会には加入を勧めており、相互の連携と親睦を図ることが肝要と思う。

北野地区町会自治会連合会は町自連に参画し、行政にも下請けではなく対等の立場で協力するべきは協力する組織として、市民サービスの向上に努めている。

市内の交通事故件数や火災発生件数、犯罪の発生件数等が多発している現状には心が痛むものである。中でも火災発生率の四十九・二%が「放火」ということで、このような事故・犯罪を防ぐには、隣近所が交流・協調を図ると同時に町会自治会が組織的に定期的にパトロールをする他各種研修会へ積極的に参加することが重要である。

既に多くの町会自治会が進めていることは承知しており敬意を表すると同時に、更なる運動の展開で「明るく住みよい街づくり」「安全安心の街づくり」を進めよう。

町自連だよりも第三号の発行となり、いよいよ内容についての言い訳が出来る最後となったが、編集員一同、高校球児の気力にも負けないパワーで暑さにもめげず老骨に鞭打って頑張っている。内容も地区の活動内容を中心としているが、少しずつ町会自治会の活動紹介も取り上げて、興味ある紙面づくりに努力する。

### 編集後記

町自連だよりも第三号の発行となり、いよいよ内容についての言い訳が出来る最後となったが、編集員一同、高校球児の気力にも負けないパワーで暑さにもめげず老骨に鞭打って頑張っている。内容も地区の活動内容を中心としているが、少しずつ町会自治会の活動紹介も取り上げて、興味ある紙面づくりに努力する。